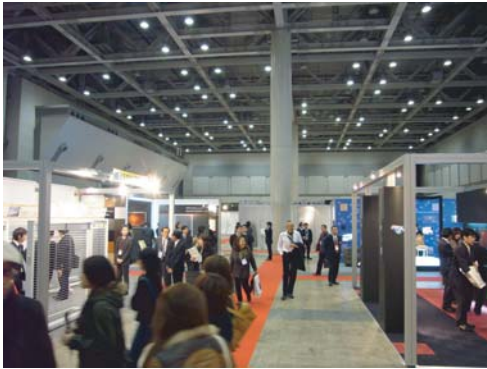


■ IPEC-2007が開催されています

既に会員の皆様には、IPEC事務局より、入場券が届いていると思いますが、JIPA・JIPATに関するニュースを以下にお知らせいたします。



昨年のIPECの様子

IPEC-2007

東京ビッグサイト・西ホール
11月21日(水)～24日(土)
10:00～18:00(最終日は17時終了)

■会場には「JIPA SALON」が常設されています。協会会員相互、あるいは出店者との交流の場としてご活用下さい。又全国IP協会の活動状況がモニターにてご覧いただけます。

■開催初日の21日(水)13:00からの「野中ともよ氏(地球人)」による『特別講演:G軸とデザイン』は、IPEC事務局と調整の上、入場料は無料に致しましたので、お時間をご調整の上、是非とも、ご参加下さい。

■JIPA交流会

- ◆趣旨：JIPA主催IPEC-2007の開催に合わせてJIPATが運営する、JIPA会員相互、及び出店者との交流会です。
- ◆日時：2007年11月22日(木)18:00～20:30
- ◆会場：東京ビッグサイト西ホール、アトリウム、HOTPOINT内
- ◆会費：2,000円(予定)※当日会場受付にて徴収致します。
- ◆次第：
 - ・18:00 受付開始
 - ・18:30 IPEC AWARD及びDSの表彰式
 - ・19:00 開会挨拶、乾杯 JIPA会長 中川 誠一
 - ・19:10 歓談
 - ・19:40 全国各協会近況報告(各協会代表者による報告)
 - ・20:25 中締め JIPAT会長 浦 一也
 - ・20:30 閉会

以上です。是非とも会場に足をお運び下さい。

■ オープンハウスのご案内

奥沢の家

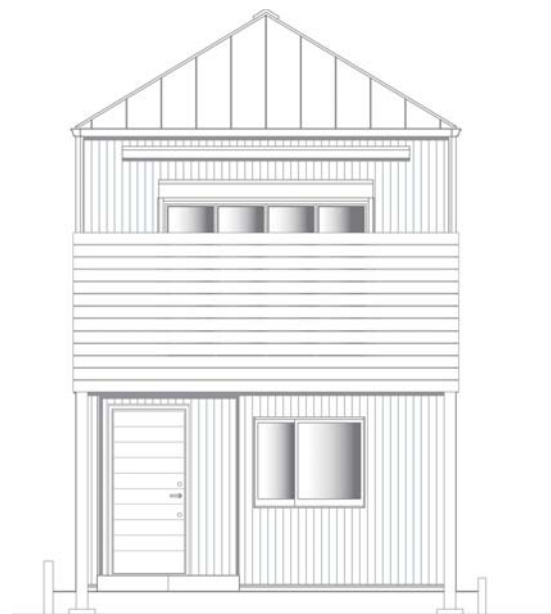
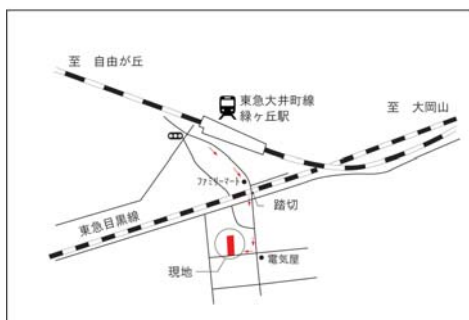
この度、世田谷区の閑静な住宅街に、新しい住まいが完成いたしました。外断熱工法+セルロースファイバー(床、壁、天井充填)に、桐材の床、建具、そして壁、天井は珪藻土と自然素材で建てられ、住環境を十分に満足させることで、ランニングコストを最小限にすることを目標にしています。

日時：平成19年12月1日(土)
AM 10:00～PM 4:00

現場住所：東京都世田谷区奥沢1丁目65-1
最寄り駅：東急大井町線 緑ヶ丘駅 徒歩3分
連絡先：ティ・デザイン・エス

会社：TEL 03-3350-0258
担当：霜野 携帯 090-3312-2886
都築 携帯 090-5197-3112

案内図



奥沢の家

■ 中国インテリアプランナー協会からのお知らせ



中国インテリアプランナー協会よりイベントのお知らせが来ました。残念ながら、ほとんどのセミナーは既に申し込みが終わっているようですが、「AKARI BANK」の旧日本銀行広島支店は見ごたえありそうです。機会の在る方はいかがでしょうか。様々なセミナーも開催されますが、ほとんどのセミナーはすでに申し込みは終わっているのですが、以下のセミナーにつきましたは、当協会のメンバーのみ若干数のみ抑えてあります。

ライティングデザイナーの東海林弘靖氏
12月8日(土)17:00-18:30 東海林弘靖氏講演会(無料)
19:00-ワインパーティー (5000円)

講演会、パーティー参加申し込みの方につきましたは先着順になりますが、ご希望の方につきましたは、メール、ファックスにてお早めに申し込みくださいませ。
<http://www.akaribank.jp/>

中国インテリアプランナー協会
〒731-5135 広島市佐伯区海老園1-13-7
T:082-923-2132 F:082-922-0018 E-Mail cipa@cipa21.com

■ 秋の七草のはぎとおぎは？

会社の近くに萩中と言う住所があります。私はそのハギをススキと間違えていて、ススキに似ているのが、オギ(荻)と言います。ススキより穂が薄紫色です。花は咲きません。一方ハギはちゃんと花が咲くのです。豆科で秋の七草に数えられています。家畜の肥料にされます。名前の由来は茎を切ると古株から芽が出ることから、「生え木(はえぎ)」から。万葉集の中では一番歌われている植物です。



オギの群落 (花穂は薄紫色)



ハギの花

■ 知って知らない道具たち



電子ポンチ

古いタンスの把手の取り換えを頼まれた。職人をつれて顧客の所に行き、引き出しの前板の厚みにより、把手のネジの長さが違うのは誰も承知しているが、ネジの長さを切るのにペンチを使ったり、ノコで切ったりしていた。職人はやおら写真のような機具を取り出して、ネジの径にあわせてサイズが書いてある穴に差し込みいとも簡単に切り取った。

切り取ったネジの切り口も綺麗ですぐに把手の受け穴に収まった。いい工具だね、と言うと職人曰くある人が反対側からネジを差し込み切り取ったら、切り取った先がネジ側(数字が書いてある方)に残りとれなくなると話を聞いた。

多分その話を聞かなかつたら、次にそのような依頼がきたら、私ならやりかねないと思った。

■ 裏千家・表千家の違い



江戸職人綺譚(佐江衆一書)の短編で〈対の匏〉の文中次の文章が気になった。

『茶室には千利休以来、古い伝統とさまざまな約束事があり、流派によっても微妙に異なる。広さも利休が秀吉に命じられて造ったといわれる待庵(たいあん)のような二畳の茶室、江岑宗左が父宗旦から継いだ一畳半の庵を立て替えた三畳台目の不審庵、織田有楽の好みとされる京都建仁寺の二畳半台目の如庵、古田織部好みとされる三畳の客室を中心に相伴席と点前座を設けた燕庵など、茶室自体は小間が多いが、小堀遠州好みの京都大徳寺の書院と草庵を合わせる広い密庵や、大名屋敷の茶室のような書院風の広間もあり、代表的な四畳半の小間でも、水屋、勝手の間、廁など、...』これを読んでほとんどが理解できないことに気が

ついた。私が生まれた所が京都市上京区寺ノ内通り小川川と言う場所で、戦争前でしたので4才位だったと思うのですが、兄と隠れん坊を以てして玄関の縦繫ガラス引き戸(京都には多いのです)を倒してしまい、ものすごい轟音でガラスが割れ、慌てて逃げた事を鮮明に覚えている。そのガラス引き戸は裏千家の入り口でした。今は重要文化財になっていて、入れないのですが、当時は入れたようです。さて裏千家、表千家などは言葉では分っているのですが、「千」がつかますので千利休の流れだとは理解しています。しかしそれが、どう違うのと聞かれると答えられません。そこで今回は茶室について調べてみました。

千利休居士(1522~1591)名前の由来は(「利心、休せよ」(才能におぼれずに境地を目指せ)と、居士は「家に居する士(人)」ということで、仏教の僧侶とならず、在家のままで仏教を信仰している人。)秀吉によって切腹を命ぜられ70才の命を果てたことは誰でも知っています。その後がどうなったのかが知りたい。利休には2人の息子がいました。一人は道安といい、後妻の子供で少庵といい、京で利休とともに茶をひろめました。利休の死後、利休の高弟で会津若松の蒲生氏郷の元に身を寄せていました。またその息子が宗旦といい大徳寺で修業をしており、千家は一家離散状態にありました。利休切腹から3年後少庵は京に戻ります。この時徳川家康、蒲生氏郷による連署状「少庵召出状」として千家の再興を意味する書状として現在も家元に伝わっています。その後、現在まで連綿と続く侘び茶を徹底させ、茶禅一味を唱え、千家茶道の礎をさすしたのは、少庵のあと千家3代を継いだ千宗旦(1578~1658)です。宗旦は、末子の宗室(1622~1697)が20歳を越える頃、自分の茶を譲ろうと考え、ついに不審庵を三男宗左に任せ、(表千家)自分は末子の宗室と共に、同邸内に茶室を建てて移り住みました。それが、裏千家の一畳台目の茶室今日庵、利休四畳半を正しく再現した又隠、八畳敷の広間寒雲亭です。これらの由緒ある茶室は、すべて宗室に譲られ、世に言う表千家の不審庵と、後に宗旦の二男宗守が建てた分家としての官休庵とあわせた三千家が生まれました。

さて、茶室は、露地(1)という庭と一体になって、茶の湯をおこなうためのものです。客は世俗をこえた世界に遊ぶために、潜りをくぐって、清々しい露地を歩きます。露地は飛石や延段で道をつくり、樹木を植えて静かな山里の雰囲気をつくります。客は蹲踞(2)で手水を使って躰口(3)から茶室へ入ります。室内は日常の暮しの空間とは異なり、低く狭いほの暗い座敷です。そして丸太の柱で自然の素材を使った土壁塗りの簡素を極めた造りです。茶人はこうした簡素な造りのなかに、茶の湯の心意気をかよわせ、繊細な眼配りによって、隅々まで洗練された空間をつくり出したのです。茶室は客座と点前座から成り、床(4)を設け、炉(5)を切って、客をもてなしやすいように、それらの配置に工夫をめぐらします。もてなしのためには客に窮屈な思いをさせることはできません。狭い空間も広く感じられるよう工夫します。茶の湯の所作には低い天井も、低い出入口も支障はありません。

こうした日常性をこえた茶室も、実は日本人の住居の縮図のようなものでした。茶室には広間の茶室もつくられました。そしてそういう造りが日常的な建物の中にも取り入れられて数寄屋造りという様式が発達したのでした。

今回は茶室の平面図を中心に調べたい。

(1) 露地 ろじ

茶室の庭。一般的に飛石、蹲踞、腰掛、石燈籠などが配置され、また規模によっては寄付、中門、待合、雪隠、井戸なども配される。二重露地の場合は、「内露地」と「外露地」に分かれる。

(2) 蹲踞 つくばい

露地の手水鉢の一つ。石の手水鉢を低く据え、つくばった(しゃがんだ)姿勢で手を洗う。(こうべを垂れる)

(3) 躰口 にじりぐち

小間の茶室の出入口。「にじりあがり」「くぐり」などとも呼ばれる。高さ2尺2寸(約67cm)、幅2尺1寸(約64cm)程度のものが多い。客はこのような狭い入口から身体をかがめてにじって茶室に入る。にじり口は俗世間(茶室の外)と聖なる空間(茶室の中)を隔てる結界の役割をはたすものといえる。

(4) 床 とこ

床の間(とこのま)客が茶室に入って最初に拝見するところ。床ともいう。もとは貴人の座る場所であった。茶室の床の間には掛物や花入を飾る。初期は、一間床、張付壁、黒塗框などがあったが、千利休によって間口も5尺、4尺に縮められた。また、丸太の床框、土壁の壁も用いられ、わびた形式の床がつくられるようになった。

(5) 炉 ろ

茶室に切る1尺4寸(約42cm)四方の囲炉裏で、通常は壁塗の炉壇が用いられる。大炉、長炉、丸炉(がんろ)などがあり、炉の切り方には向切、隅切、出炉がある。11月はじめから5月はじめ頃まで茶席で湯をわかすために用いられた。

■ 編集後記

協会に所属している我々に非常に近い情報として、来年度から40歳から74歳までを対象にした特定健康診断・特定保険指導がスタートします。これはメタボと診断されると、6ヶ月以内に適正数値に近づけよと繰り返し指導をうけ、通院を勧められるか、メタボは自己責任として最大10%の医療費負担アップが検討されているそう。

井上 常雄